

CA ARCserve® Replication/High Availability

r16 リリース ノート



このドキュメント(組み込みヘルプ システムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」)は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社(以下「CA」)により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複製、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを適切な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害(直接損害か間接損害かを問いません)が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとでの提供:アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2012 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA Technologies の製品は以下のとおりです。

- CA ARCserve® Replication
- CA ARCserve® High Availability (HA)
- CA ARCserve® Assured Recovery®
- CA ARCserve® Content Distribution

このガイドでは、CA ARCserve RHA という用語は製品ファミリ全体を指しています。この製品は、以前 CA XOsft Replication (WANsync) および CA XOsft High Availability (WANsyncHA) として販売されていました。

CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.casupport.jp/resources/storagesupp/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: はじめに	7
第 2 章: CA ARCserve RHA r16 SP2	9
新しい機能および拡張機能	9
ベア メタル マシンへのリストアのサポート	9
NAT サポート	10
拡張機能	11
含まれる修正プログラム	13
既知の問題	14
第 3 章: CA ARCserve RHA r16 SP1	19
新しい機能および拡張機能	19
プロキシ サーバ サポート	19
CA ARCserve D2D サポート	19
含まれる修正プログラム	20
第 4 章: 新しい機能および拡張機能	21
実行時のシナリオの変更	21
クラウド サポート	22
クラスタ サポートの拡張	23
安全な通信	23
仮想化拡張機能	23
サポートが終了した機能	24
第 5 章: システム情報	25
最小ハードウェア要件	25
サポートされている構成: Windows	26
サポートされている構成: UNIX/Linux	34
サポートされる仮想プラットフォーム	34
インストールに関する考慮事項	35

第 6 章: 既知の問題	39
第 7 章: ローカライズ バージョン	43

第 1 章: はじめに

CA ARCserve RHA リリース ノートへようこそ。このドキュメントには、CA ARCserve RHA 製品ファミリの使用に関する以下の情報が含まれています。

- 新機能、サポートが停止された機能、強化機能が既存機能に及ぼす影響に関する情報
- 本製品の出荷後に発見され、ユーザが本製品を使用する前に認識しておくべき問題
- 本リリースに含まれる修正プログラムのリスト

以前のリリースに関する同様の情報については、サポート サイトの対応するリリース サマリを参照してください。

1. support.ca.com にアクセスします。
2. [Get Support]内の[Product Documentation]をクリックします。
3. [Select a Product]リストから「CA ARCserve Replication and High Availability」を選択します。
4. [Select a Release]リストから現在のバージョンを選択します。
5. [Go]をクリックします。ドキュメント名のリストが表示されます。希望するサービスパックのリリース ノートをダウンロードします。

このドキュメント全体を通じて、「CA ARCserve RHA」という用語は、特に明示しない限り、すべての製品を指します。

第 2 章: CA ARCserve RHA r16 SP2

このセクションでは、CA ARCserve RHA r16 SP2 の新しい機能、拡張機能、および含まれる修正プログラムについて説明します。

注: このサービス パックは、r16.5 アルファからのアップグレードをサポートしていません。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[新しい機能および拡張機能 \(P. 9\)](#)

[含まれる修正プログラム \(P. 13\)](#)

[既知の問題 \(P. 14\)](#)

新しい機能および拡張機能

CA ARCserve RHA r16 SP2 では、以下の機能がサポートされます。

ベア メタル マシンへのリストアのサポート

このリリースの CA ARCserve RHA では、ベア メタル マシンへのデータのリストアがサポートされています。フェールオーバー/スイッチオーバーを実行した稼働中のシステム、またはブックマークリワインドポイントから、ベア メタル マシン (物理または仮想) にリストアできます。この機能では、データのリストアだけでなく、オペレーティング システム、アプリケーション、および他の必要なコンポーネントをインストールして、ベア メタル マシンが構築されます。

ベア メタル リカバリには以下の利点があります。

- データをリストアする前に、マスタと類似したマシンを構築します。
- 類似していないハードウェアに対しても、データのリカバリを行うことができます。
- データは、ボリュームレベルでリカバリします。

NAT サポート

このリリースでは、NAT（ネットワークアドレス変換）環境で CA ARCserve RHA を展開できます。この機能では、ホストサーバが NAT デバイスまたはファイアウォールの内側にある環境で RHA を設定できます。たとえば、マスタが NAT デバイスの内側、コントロール サービスとレプリカがパブリックドメイン上にある場合でも設定が可能です。

この機能を使用するために、CA ARCserve RHA は RHA NAT ユーティリティを提供しています。NAT デバイスの内側にあるホスト上で RHA NAT ユーティリティを設定します。

RHA NAT 機能はレプリケーション、リストア、フェールオーバーおよびシナリオ管理をサポートしています。

拡張機能

このリリースの CA ARCserve RHA では、以下の拡張機能が提供されています。

- **ボリューム スナップショット管理サポート:** ボリューム スナップショットが簡略化され、ボリューム スナップショットを一か所で設定できます。さらに、ブックマークの作成中にスナップショットを作成するかどうかを指定できます。ブックマークの作成中に、このオプションのチェック ボックスを利用できます。
- **高度な帯域幅および I/O 制限:** 帯域幅スケジューラの機能が拡張され、週全体で一時間ごとの帯域幅を設定できます。たとえば、月曜日の 9:00 AM は 256 KB、水曜日の 4:00 PM は 192 KB などのように設定できます。
- **アクティブ サーバのリカバリ:** フル システム シナリオでアクティブ サーバのリカバリ機能がサポートされました。この機能を使用して、スイッチオーバーまたはスイッチバックをシミュレートできます。
- **仮想マシンの開始/停止:** [ツール]メニューに、仮想マシンを停止または開始するための新しいオプションが追加されました。このオプションは、データリカバリまたはハイアベイラビリティのフル システム シナリオで利用可能です。
- **すべての VM リソースの削除:** [ツール]メニューに、一時 VM リソースを削除するための新しいオプションが追加されました。この操作では、ディスク ファイル、スナップショット、および他の一時ファイルなどの一時リソースを削除できます。
- **VMware Distributed Virtual Switch:** フル システム シナリオに VMware Distributed Virtual Switch のサポートが追加されました。ネットワーク マッピング中に vSphere Distributed Virtual Switch を選択できます。
- **コントロール サービスのプロキシサポート:** RHA コントロール サービスの HTTP プロキシ サポートが追加されました。このサービスにより、HTTP プロキシ サーバを使用して、コントロール サービスを RHA エンジン ホストに接続できます。
- **データリワインドのパフォーマンス:** リワインド ポイントのクエリ機能が再構成され、ユーザ インターフェイスが再設計されました。リワインド中にイベント ポイントを高速検索できます。100 万件のイベントがあっても、応答時間は高速です。
- **スケジュール済みブックマーク:** [スケジュール済みブックマークの有効化] という新規プロパティが追加され、MSSQL のような DB シナリオ、および Exchange シナリオのブックマーク スケジュールを作成できるようになりました。
- **CAVSSSoftProv サービス:** CAVSSSoftProv サービスは不要になりました。

- **ログ収集ユーティリティ:** ログ収集ユーティリティが追加されました。このユーティリティは、マスタとレプリカからのイベント ログと共に、マスタ、レプリカ、およびコントロール サービスのログを自動的に取得できます。
- **アプリケーションの整合性を保つスナップショットを作成:** この機能を使用すると、RHA エンジンが、Exchange VSS ライタや MSSQL VSS ライタなどのアプリケーション VSS ライタを呼び出して、アプリケーションの整合性を保つスナップショットを作成することができます。スナップショットは、ブックマーク作成中にマスタ上で作成されます。
- **レプリカでアーカイブ属性を保持する:** レプリケーション プロパティに追加された新しいプロパティ。オンにすると、マスタとレプリカのファイルが同一の場合、同期中にレプリカ上のアーカイブ属性を保持します。
- **ローカル アカウント名の保存:** ローカル アカウント名をレプリカ マシンで保持するための、レプリケーション プロパティに追加された新しいプロパティ。シナリオを実行する前に、マスタとレプリカの両方で同じローカル ユーザまたはグループを手動で作成します。このプロパティをワークグループ環境で使用します。このプロパティは Windows マシンにのみ適用可能です。
- **DNS 更新ツールを使用した DNS リダイレクション:** このツールを使用して、マスタ サーバの DNS A レコードを、レプリカの IP アドレスに解決するように変更します。このツールは、[VM の開始/停止]機能を使用して VM を開始または停止した後に使用します。RHA エンジンのインストール フォルダにある update_dns.exe ファイルを実行して、このツールを使用することができます。
- **フル システム シナリオのオフライン同期サポート:** オフライン同期は、フォワード シナリオ、バックワード シナリオ、およびベア メタル リストア シナリオを含むフル システム シナリオに対応するように拡張されました。

含まれる修正プログラム

CA ARCserve RHA r16 SP2 に含まれた修正のリストを以下に示します。このセクションに記載されていない修正点にお気づきの際は、CA サポートまでお問い合わせください。

修正番号	修正番号	修正番号	修正番号	修正番号	修正番号
T4C4114	T5LF080	T5LF105	T5LF131	T5TM020	T5TM048
T4C4115	T5LF081	T5LF106	T5LF132	T5TM021	T5TM049
T5HP064	T5LF082	T5LF107	T5LF133	T5TM022	T5TM050
T5LE072	T5LF083	T5LF108	T5LF134	T5TM023	T5TM051
T5LE074	T5LF084	T5LF109	T5LF135	T5TM024	T5TM052
T5LE075	T5LF085	T5LF110	T5LF136	T5TM025	T5TM053
T5LE076	T5LF086	T5LF111	T5LF138	T5TM026	T5TM054
T5LE077	T5LF087	T5LF112	T5LF139	T5TM027	T5TM055
T5LE078	T5LF088	T5LF113	T5LF140	T5TM028	T5TM056
T5LE081	T5LF089	T5LF114	T5LT068	T5TM030	T5TM057
T5LE082	T5LF090	T5LF115	T5LT069	T5TM031	T5TM058
T5LE083	T5LF091	T5LF117	T5LT070	T5TM032	T5TM059
T5LE084	T5LF092	T5LF118	T5LT071	T5TM033	T5TM060
T5LE085	T5LF093	T5LF119	T5LT072	T5TM034	T5TM061
T5LE087	T5LF094	T5LF120	T5LT073	T5TM036	T5TM062
T5LE088	T5LF095	T5LF121	T5LT074	T5TM037	T5TM064
T5LE089	T5LF096	T5LF122	T5LT075	T5TM038	T5TM065
T5LE090	T5LF097	T5LF123	T5LT076	T5TM039	T5TM066
T5LE091	T5LF098	T5LF124	T5LT077	T5TM040	T5TM067
T5LE092	T5LF099	T5LF125	T5LT078	T5TM041	T5TM068
T5LE095	T5LF100	T5LF126	T5LT080	T5TM043	T5TM069
T5LE096	T5LF101	T5LF127	T5LT081	T5TM044	T5TM070
T5LE099	T5LF102	T5LF128	T5LT082	T5TM045	T5TM071
T5LE100	T5LF103	T5LF129	T5LT083	T5TM046	
T5LF079	T5LF104	T5LF130	T5LT084	T5TM047	

既知の問題

以下の問題が本リリースに存在していることが判明しています。

- ドック マネージャを使用してパネルを再配置した後に、CA ARCserve RHA のインターフェースをデフォルトの状態にリセットできない場合は、以下の手順に従います。
 - ws_gui.exe ファイルの実行ディレクトリを検索します。
 - インターフェースを閉じます。
 - このディレクトリでは、ファイル dock_layout.xml および dock_layoutdefault.xml を削除します。
 - インターフェースを再起動します。

インターフェースの配置がデフォルトのレイアウトに戻ります。

- TxF 機能 (IIS 7.0) を使用するアプリケーションではリワインドはサポートされていません。
- Windows Server 2008 システムにリモートで CA ARCserve RHA エンジンを実インストールする場合、ローカル システムとしてコントロール サービスにログインするとインストールは失敗します。これを回避するには、ドメイン管理者アカウントを使用してコントロール サービスにアクセスします。
- Windows Server 2008 R2 を実行しているコンピュータ上で [コンピュータ名の切り替え] リダイレクション方式を使用する場合は、フェールオーバーが発生した後、手動でマスタ サーバをドメインに再接続する必要があります。
- NetBIOS サーバ名が 15 文字より長いとき、インターネット オプションでプロキシが設定されていると、[概要] 画面からの CA ARCserve RHA マネージャの起動が失敗する場合があります。プロキシ サーバが解決できるのは DNS 名のみで、NetBIOS 名は解決できません。
- 72 時間後に、ベア メタル マシンは自動的に再起動します。この問題が該当するのはフル システム シナリオです。
- リカバリ後にベア メタル マシンを起動すると、いくつかのドライバが失われる場合があります。これらのドライバは、手動でインストールしてください。
- RHA エンジンを実アップグレードすると、既存のブックマークおよびリワインドポイントがすべて失われます。
- Linux プラットフォーム上の IP 移動リダイレクション方式では、IP の設定は ifconfig コマンドによってのみ可能です。

- リモート インストーラを使用してクラスタ上に RHA エンジンを実インストールする場合、エンジンを物理ノードにインストールし、クラスタ名の代わりに物理ノードを選択する必要があります。

Microsoft SQL Server

- SQL Server シナリオでは、クラスタ サーバ名はスイッチオーバーの後に変更されますが、再起動プロパティが設定されていてもサーバは再起動されません。
- C:¥ のようなブート ボリュームのルート ディレクトリに SQL データ ファイルをインストールしないでください。レプリケーション中に、ターゲット ファイルがレプリカ サーバ上で開かない場合があります、その結果エラーが発生します。
- アシユアードリカバリ シナリオは、ワークグループ内で実行中の SQL サーバ上で失敗します。理由は以下です。
 - レプリカ ローカル管理者アカウントは master データベース内のマスタ ローカル管理者アカウントによって上書きされます。
 - アプリケーションは、Windows 認証を使用して SQL サーバにログインします。

この問題を回避するには、SQL 認証または[コンピュータ名の切り替え]リダイレクション方式を使用します。

フルシステム保護

フルシステムシナリオは、マスタサーバ上でダイナミックディスクをサポートしません。

- Citrix XEN シナリオについては、ディスクに格納されているファイルが使用中の場合は、仮想マシン上のディスクをマウント解除できません。
- Windows ライセンスタイプに応じて、フルシステムアシュアードリカバリまたはスイッチオーバー後に、仮想マシンを再度アクティブにする必要がある場合があります。再アクティブ化ポリシーの詳細については、Microsoft の Web サイトを参照してください。
- ESX のサポートされているバージョンとそれ以外のバージョンが vCenter Server によって管理されている「混在環境」では、VMDK を指定したアプライアンスにマウントできないため、フルシステムシナリオが失敗する場合があります。この状況を回避するには、環境内のすべての ESX バージョンをサポートされているバージョンにする必要があります。
- フルシステムシナリオのリストアプロセスを実行する場合は、マスタ上のアプリケーションサービスを手動で停止する必要があります。そうしないと、リストア後にアプリケーションが破損する場合があります。リストア後にアプリケーションが破損した場合、問題を解決するには、アプリケーションサービスを停止し、同じブックマークまで再度リストアしてください。
- **CA ARCserve RHA r16 SP2 へのアップグレード:** RHA エンジンで以前のリリースから r16 SP2 にアップグレードする場合、アップグレードを完了するためにマスタおよびレプリカを少なくとも 1 同期する必要があります。
- フルシステムシナリオの同期中に「アクセスが拒否されました」というメッセージを受信した場合は、以下を検討してください。
 - ファイルレベル同期またはブロックレベル同期の代わりにボリュームレベル同期を使用します。
 - エンジンのサービスログオンアカウントをローカルシステムに設定します。マスタエンジンのサービスログオンアカウントがローカルまたはドメイン管理者であるために、このエラーが発生している可能性があります。

CA ARCserve RHA MMC

- MMC は、以下の場合にライセンス サーバに接続できないことがあります。
 - デフォルトの HTTP または HTTPS プロキシが、MMC が実行中のホスト上に設定されている。
 - ライセンス サーバのアドレスがプロキシバイパスリストに載っていない。
 - プロキシが Web サイトにアクセスするには認証が必要である。
 - Windows アカウントがプロキシへのアクセスに必要な権限を持っていない。つまり、現在の MMC ユーザにはプロキシを使用する権限がない。

この事態を回避するには、以下の手順に従います。

- HTTP プロキシ バイパスリストでコントロール サービスを指定します。
- Internet Explorer の HTTP プロキシ設定を削除して、MMC がコントロール サービスに直接接続できるようにします。
- 現在のユーザに対して HTTP プロキシ サーバへのアクセスを許可します。
- MMC は、Windows インターネット設定を使用してコントロール サービスに自動接続します。この設定は、サードパーティアプリケーションによって変更できます。
- CA ARCserve RHA ディスクリソースは、Microsoft Failover Cluster の複数のボリューム内でのデータの整合性を保証しません。データセット間のデータの整合性が必要なアプリケーションについては、すべてのデータを単一のボリューム上でホストする必要があります。
- CA ARCserve RHA ディスクリソースを作成できるのは、クラスタを所有するノード上のみです。たとえば、クラスタ ノード A、B、C、および D があり、ノード A がクラスタを所有している場合は、ディスクリソースはノード A 上のみ作成することができます。

Oracle Solaris 11

Solaris 11 で IP 移動リダイレクション方式のシナリオを作成する前に、関連する NIC/IP アドレスを Solaris 側で手動モードに設定してください。

Linux

- マスタのルートディレクトリにおける任意のファイル操作では、SeLinux を無効にするか、SeLinux セキュリティコンテキストを変更する必要があります。

Microsoft Windows 2003

- レプリカ サーバが Windows 2003 で、マスタサーバが Windows 2008 以降である場合、以下のエラーが発生する可能性があります。このエラーは、ハードリンクまたは Transactional NTFS (TxF) ファイルシステムの操作を Windows 2003 がサポートしていないために発生します。

イベント ハード リンクの作成 を

```
¥¥?¥Volume{b8262eac-30ac-11e1-959c-000c29f6edbe}/<a-file-path>  
に対して実行できません。アクセスが拒否されました。(5)
```

第 3 章: CA ARCserve RHA r16 SP1

このセクションでは、CA ARCserve RHA r16 SP1 の新しい機能、拡張機能、および含まれる修正プログラムについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[新しい機能および拡張機能 \(P. 19\)](#)

[含まれる修正プログラム \(P. 20\)](#)

新しい機能および拡張機能

CA ARCserve RHA r16 SP1 では、以下の機能がサポートされます。

プロキシ サーバ サポート

CA ARCserve RHA では、プロキシ サーバを使用したレプリケーションが可能です。プロキシ サーバを使用するようにシナリオ内の設定ができます。プロキシ サーバは、マスタレプリカ同期およびレプリケーションでのみ使用できるように制限されています。

CA ARCserve D2D サポート

CA ARCserve RHA では、ファイル システム シナリオ統合オプションを使用した CA ARCserve D2D バックアップのネイティブ サポートが提供されます。

含まれる修正プログラム

CA ARCserve RHA r16 SP1 に含まれた修正のリストを以下に示します。このセクションに記載されていない修正点にお気づきの際は、CA サポートまでお問い合わせください。

- T5TM034
- T5LF089
- T5TM032
- T5LT060
- T5LT069
- T5LT082
- T5LF080
- T5LF082
- T5LF085
- T5LE072

第 4 章: 新しい機能および拡張機能

このセクションでは、CA ARCserve RHA (以前の製品名:「CA XOsoft」)製品ファミリの新機能および拡張機能について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[実行時のシナリオの変更](#) (P. 21)

[クラウド サポート](#) (P. 22)

[クラスター サポートの拡張](#) (P. 23)

[安全な通信](#) (P. 23)

[仮想化拡張機能](#) (P. 23)

[サポートが終了した機能](#) (P. 24)

実行時のシナリオの変更

このリリースから、実行中のシナリオを停止したり、強制的に再同期を行わずに、シナリオのプロパティを変更できるようになりました。変更可能なプロパティには、以下があります。

- スプールの設定
- Is Alive 値
- 帯域幅の設定
- スケジュールのプロパティ

クラウド サポート

このリリースから、以下の機能が導入されました。

クラウドへのレプリケート

手動で EC2 上にレプリカをセットアップする必要なしに、Windows Server データのレプリケーション ターゲットとして Amazon Web サービス EC2 クラウド インスタンスを使用できます。クラウド レプリケーションでは、ファイルおよびバイトレベルのレプリケーション、AWS 上で実行される複数の EC2 インスタンス、フォワード方向のスケジュール済み、定期的、および継続的なレプリケーション、およびクラウドからのリカバリがサポートされます。

クラウドへのフェールオーバー

手動で EC2 上にレプリカをセットアップする必要なしに、フル システム保護のハイアベイラビリティ ターゲットとして Amazon Web サービス EC2 クラウド インスタンスを使用できます。クラウドへのフェールオーバーでは、複数の Windows 2003 サーバおよび 2008 R2 サーバのフル システム保護をサポートし、EC2 クラウドでのオンライン レプリケーション ターゲット、アプリケーションおよびサーバのモニタ、フォワード方向への継続的なレプリケーションおよびクラウドからのオフライン リカバリをサポートします。

注: これらの機能には、有効かつ設定済みの Amazon Web サービス EC2 アカウントが必要です。Amazon Web サービスは、公式には Windows 2008 R2 をサポートしていません。この環境でのテスト中に問題が確認されました

クラスタ サポートの拡張

このリリースから、CA ARCserve RHA は Microsoft Failover Cluster 2008 システムに以下の保護を提供します。

- 共有ストレージ構成で実行される Microsoft Failover Cluster 2008 展開に追加のオフサイト保護レイヤを提供することにより、単一障害点を除去します。CA ARCserve RHA は継続的なレプリケーションを提供することで、共有ストレージハードウェアが全損した場合でも、クラスタ化されたアプリケーションが引き続き動作できるようにします。
- Microsoft のレプリケーション プロバイダとして動作し、Windows Server 2008 フェイルオーバー クラスタリングで導入される新しい地理的分散クラスタリング機能を有効にします。このハイアベイラビリティソリューションは、ローカルエリア ネットワーク (LAN) または広域ネットワーク (WAN) を介した遠距離のクラスタ ノードの接続を可能にし、自動ディザスタリカバリを提供するソリューションです。

安全な通信

このリリースから、サードパーティ VPN を使用することなく、オンプレミスおよびオフプレミス サーバ間の通信を保護するために、SSL 128 ビット暗号化がサポートされるようになりました。

注: 安全な通信とは VPN 置換でなく、ローカル LAN を拡張せず、ファイアウォールも回避しません。

仮想化拡張機能

このリリースから、フル システム シナリオで以下の仮想プラットフォームがサポートされるようになりました。

- Microsoft Hyper-V
- VMware vSphere
- VMware ESX/ESXi
- Citrix Xen サーバ
- Amazon EC2

サポートが終了した機能

このリリースで削除された機能はありません。

第 5 章: システム情報

このセクションでは、サポート対象オペレーティングシステムおよびシステム要件について説明します。CA ARCserve RHA をインストールして使用する前に、以下の情報を確認してください。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[最小ハードウェア要件](#) (P. 25)

[サポートされている構成: Windows](#) (P. 26)

[サポートされている構成: UNIX/Linux](#) (P. 34)

[サポートされる仮想プラットフォーム](#) (P. 34)

[インストールに関する考慮事項](#) (P. 35)

最小ハードウェア要件

CA ARCserve RHA の最小ハードウェア要件については、サポートするオペレーティングシステムおよびアプリケーション用に指定された最小ハードウェア要件を参照してください。

サポートされている構成: Windows

サポートされているシステムの最新情報については、こちら
<http://www.casupport.jp/resources/storagesupp/>を参照してください。

全般的な注意事項:

- High Availability の BlackBerry サポート (BES) は、CA ARCserve RHA for SQL および CA ARCserve RHA for File Servers に含まれています。
- CA ARCserve High Availability は、マスタ サーバまたはレプリカ サーバのいずれかが Windows ドメイン コントローラ (DC)、DNS サーバ、または SBS (Windows Small Business Server) サーバとしても機能する環境ではサポートされていません。代わりに CA ARCserve Replication を使用する必要があります。
- Itanium 2 プロセッサおよび IA-64 プロセッサはサポートされていません。
- CA ARCserve RHA のハードウェア要件は、実行するオペレーティング システムおよびアプリケーションによって異なります。ご使用のシステムが、CA ARCserve RHA のインストール先として予定しているオペレーティング システム、および保護の対象とするアプリケーションの最低限のハードウェア要件を満たしていることをご確認ください。

CA ARCserve Replication

ファイル サーバ、SQL 2005/2008/2008 R2/2012、Exchange 2003/2007/2010、SharePoint 2007/2010 のレプリケーションでは、以下のオペレーティング システムがサポートされています。

- Windows Server 2003 Standard Edition (32 ビット、x64)、Windows Server 2003 Standard Edition (32 ビット、x64) SP1、SP2
- Windows Server 2003 Standard Edition R2 (32 ビット、x64)
- Windows Server 2003 Enterprise Edition (32 ビット、x64)、Windows Server 2003 Enterprise Edition (32 ビット、x64) SP1、SP2
- Windows Server 2003 Enterprise Edition R2 (32 ビット、x64)
- Windows 2003 Web Server Edition (32 ビット、x64)、Windows 2003 Web Server Edition (32 ビット、x64) SP1、SP2
- Windows 2003 Datacenter Edition (32 ビット、x64)
- Windows Small Business Server 2003 (32 ビット、x64)、Windows 2003 Small Business Server (32 ビット、x64) SP1、SP2 (SBS では、Exchange のフェールオーバーはサポートされていません)

- Windows Small Business Server 2003 R2 (32 ビット、x64) (SBS では、Exchange のフェールオーバーはサポートされていません)
- Windows Server 2003 Cluster (32 ビット、x64)、Windows Server 2003 Cluster SP1 (32 ビット、x64)、(MNS および CCR クラスタはサポートされていません)
- Windows Server 2003 Cluster R2、SP2 (32 ビットおよび x64) (MNS および CCR クラスタはサポートされていません)
- Windows Storage Server 2003 SP1 (32 ビットおよび x64)
- Windows Server 2008 Standard、Enterprise、Datacenter、Web Server (32 ビットおよび x64) Itanium ベースのシステムでは、Windows Server 2008 はサポートされていません。
- Windows Server 2008 Enterprise Edition R2 (x64)
- Windows Server 2008 R2 Server Core
- Windows Storage Server 2008 SP1、SP2 (32 ビットおよび x64)
- Windows Storage Server 2008 R2 (Workgroup、Standard、および Enterprise)
- Microsoft Virtual PC (32 ビット、x64) (全バージョン) (ゲスト環境のみ)
- Microsoft Virtual Server (全バージョン) (32 ビット、x64) (ゲスト環境のみ)
- Microsoft Hyper-V (全バージョン) (ゲスト環境のみ)
- VMware 仮想化製品 (ESX、GSX、vCenter サーバおよびワークステーションの全バージョン) (32 ビット、x64) (ゲスト環境のみ)

Replication に関する注意事項:

- Replication for Exchange は、SBS (Windows Small Business Server) 環境におけるフェールオーバー/フェールバックではサポートされていません。しかし、リカバリ用のレプリケーションは完全にサポートされています。
- Replication for Exchange 2007 で、フェールオーバー/フェールバックに `ws_ex2e.exe` ユーティリティが必要ではなくなり、サポートも停止されました。フェールオーバーおよびフェールバックのプロセスが、Microsoft Exchange Management Shell (Microsoft Windows PowerShell を基盤とした、Microsoft Exchange Server 2007 の新しいインターフェース) を使って手動で実行できるようになりました。 `ws_ex2ex.exe` ユーティリティは、Exchange 2003 に対して継続してサポートされます。日本語環境では、このユーティリティは Unicode (1 バイト) 以外の文字が Exchange Server で引数として使用されている場合のみサポートされることにご注意ください。

Full System Replication に対して、以下のオペレーティング システムがサポートされています。

- Microsoft Windows Server 2003 SP2
- Microsoft Windows Server 2003 R2 SP2
- Microsoft Windows Server 2008 SP1、SP2
- Microsoft Windows Server 2008 R2、SP1

Replication for Oracle に対して、以下のオペレーティング システムがサポートされています。

- Windows Server 2003 Standard Edition (32 ビット、x64)、Windows Server 2003 Standard Edition (32 ビット、x64) SP1、SP2
- Windows Server 2003 Standard Edition R2 (32 ビット、x64)
- Windows Server 2003 Enterprise Edition (32 ビット、x64)、Windows Server 2003 Enterprise Edition (32 ビット、x64) SP1、SP2
- Windows Server 2003 Enterprise Edition R2 (32 ビット、x64)
- Windows 2003 Web Server Edition (32 ビット、x64)、Windows 2003 Web Server Edition (32 ビット、x64) SP1、SP2
- Windows 2003 Datacenter Edition (32 ビット、x64)
- Windows Small Business Server 2003 (32 ビット、x64)、Windows 2003 Small Business Server (32 ビット、x64) SP1、SP2 (SBS では、Oracle のフェールオーバーはサポートされていません)

- Windows Small Business Server 2003 R2 (32 ビット、x64) (SBS では、Oracle のフェールオーバーはサポートされていません)
- Windows Server 2008 Standard、Enterprise、Datacenter、Web Server (32 ビットおよび x64)
- Windows Server 2008 R2 Server Core
- Microsoft Virtual PC (32 ビット、x64) (全バージョン) (ゲスト環境のみ)
- Microsoft Virtual Server (全バージョン) (32 ビット、x64) (ゲスト環境のみ)
- Microsoft Hyper-V (全バージョン) (ゲスト環境のみ)
- VMware 仮想化製品 (ESX、GSX、vCenter サーバおよびワークステーションの全バージョン) (32 ビット、x64) (ゲスト環境のみ)

Oracle に関する注意事項

- Oracle では、自動リワインド チェックポイントはサポートされていません。代わりに、マニュアルまたはスケジュール済みブックマークを挿入できます。
- Oracle 非同期 IO または Oracle 直接 IO はサポートされていません。これらが無効になっていることを確認してください。

High Availability

High Availability for File Server に対して、以下のオペレーティング システムがサポートされています。

- Windows Server 2003 Standard Edition (32 ビット、x64)、Windows Server 2003 Standard Edition (32 ビット、x64) SP1、SP2
- Windows Server 2003 Standard Edition R2 (32 ビット、x64)
- Windows Server 2003 Enterprise Edition (32 ビット、x64)、Windows Server 2003 Enterprise Edition (32 ビット、x64) SP1、SP2
- Windows Server 2003 Enterprise Edition R2 (32 ビット、x64)

- Windows 2003 Web Server Edition (32 ビット、x64)、Windows 2003 Web Server Edition (32 ビット、x64) SP1、SP2
- Windows 2003 Datacenter Edition (32 ビット、x64)
- Windows Server 2003 Cluster (32 ビット、x64)、Windows Server 2003 Cluster SP1 (32 ビット、x64)、(MNS クラスタはサポートされていません)
- Windows Server 2003 Cluster R2、SP2 (32 ビットおよび x64) (MNS クラスタはサポートされていません)
- Windows Storage Server 2003 SP1 (32 ビットおよび x64)
- Windows Server 2008 Standard、Enterprise、Datacenter、Web Server (32 ビットおよび x64)
- Windows Server 2008 Enterprise Edition R2 (x64)
- Windows Server 2008 R2 Server Core
- Windows Storage Server 2008 SP1、SP2 (32 ビットおよび x64)
- Windows Storage Server 2008 R2 (Workgroup、Standard、および Enterprise)
- Microsoft Virtual PC (32 ビット、x64) (全バージョン) (ゲスト環境のみ)
- Microsoft Virtual Server (全バージョン) (32 ビット、x64) (ゲスト環境のみ)
- Microsoft Hyper-V (全バージョン) (ゲスト環境のみ)
- VMware 仮想化製品 (全バージョンの ESX、GSX、サーバおよびワークステーション) (32 ビット、x64) (ゲスト環境のみ)

Exchange 2003/2007/2010、SQL 2005/2008/2008 R2/2012、IIS 6/7.0/7.5、SharePoint 2007/2010、CRM 4.0 のハイアベイラビリティでは、以下のオペレーティング システムがサポートされています。

- Windows Server 2003 Standard Edition (32 ビット、x64)、Windows Server 2003 Standard Edition (32 ビット、x64) SP1、SP2
- Windows Server 2003 Standard Edition R2 (32 ビット、x64)
- Windows Server 2003 Enterprise Edition (32 ビット、x64)、Windows Server 2003 Enterprise Edition (32 ビット、x64) SP1、SP2
- Windows Server 2003 Enterprise Edition R2 (32 ビット、x64)

- Windows 2003 Web Server Edition (32 ビット、x64)、Windows 2003 Web Server Edition (32 ビット、x64) SP1、SP2
- Windows 2003 Datacenter Edition (32 ビット、x64)
- Windows Server 2003 Cluster (32 ビット、x64)、Windows Server 2003 Cluster SP1 (32 ビット、x64)、(MNS および CCR クラスタはサポートされていません)
- Windows Server 2003 Cluster R2、SP2 (32 ビットおよび x64) (MNS および CCR クラスタはサポートされていません)
- Windows Storage Server 2003 SP1 (32 ビットおよび x64)
- Windows Server 2008 Standard、Enterprise、Datacenter、Web Server (32 ビットおよび x64)、R2
- Windows Server 2008 R2 Server Core
- Windows Storage Server 2008 SP1、SP2 (32 ビットおよび x64)
- Microsoft Virtual PC (32 ビット、x64) (全バージョン) (ゲスト環境のみ)
- Microsoft Virtual Server (全バージョン) (32 ビット、x64) (ゲスト環境のみ)
- Microsoft Hyper-V (全バージョン) (ゲスト環境のみ)
VMware 仮想化製品 (全バージョンの ESX、GSX、サーバおよびワークステーション) (32 ビット、x64) (ゲスト環境のみ)

High Availability for Oracle 10/11g に対して、以下のオペレーティングシステムがサポートされています。

- Windows Server 2003 Standard Edition (32 ビット、x64)、Windows Server 2003 Standard Edition (32 ビット、x64) SP1、SP2
- Windows Server 2003 Standard Edition R2 (32 ビット、x64)
- Windows Server 2003 Enterprise Edition (32 ビット、x64)、Windows Server 2003 Enterprise Edition (32 ビット、x64) SP1、SP2
- Windows Server 2003 Enterprise Edition R2 (32 ビット、x64)
- Windows 2003 Web Server Edition (32 ビット、x64)、Windows 2003 Web Server Edition (32 ビット、x64) SP1、SP2
- Windows 2003 Datacenter Edition (32 ビット、x64)

- Windows Server 2008 Standard、Enterprise、Datacenter、Web Server (32 ビットおよび x64)
- Windows Server 2008 R2 Server Core
- Microsoft Virtual PC (32 ビット、x64) (全バージョン) (ゲスト環境のみ)
- Microsoft Virtual Server (全バージョン) (32 ビット、x64) (ゲスト環境のみ)
- Microsoft Hyper-V (全バージョン) (ゲスト環境のみ)
- VMware 仮想化製品 (全バージョンの ESX、GSX、サーバおよびワークステーション) (32 ビット、x64) (ゲスト環境のみ)

注: Oracle では、自動リwind チェックポイントはサポートされていません。代わりに、マニュアルまたはスケジュール済みブックマークを挿入できます。

High Availability for Blackberry Enterprise Server (BES) に対して、以下のオペレーティング システムがサポートされています。

- Windows Server 2003 Standard Edition (32 ビット、x64)、Windows Server 2003 Standard Edition (32 ビット、x64) SP1、SP2
- Windows Server 2003 Standard Edition R2 (32 ビット、x64)
- Windows Server 2003 Enterprise Edition (32 ビット、x64)、Windows Server 2003 Enterprise Edition (32 ビット、x64) SP1、SP2
- Windows Server 2003 Enterprise Edition R2 (32 ビット、x64)
- Windows 2003 Web Server Edition (32 ビット、x64)、Windows 2003 Web Server Edition (32 ビット、x64) SP1、SP2
- Windows 2003 Datacenter Edition (32 ビット、x64)
- Windows Server 2003 Cluster (32 ビット、x64)、Windows Server 2003 Cluster SP1 (32 ビット、x64)、(MNS および CCR クラスタはサポートされていません)
- Windows Server 2003 Cluster R2、SP2 (32 ビットおよび x64) (MNS および CCR クラスタはサポートされていません)
- Windows Server 2008 Standard、Enterprise、Datacenter、Web Server (32 ビットおよび x64)
- Windows Server 2008 R2 Server Core
- Microsoft Virtual PC (32 ビット、x64) (全バージョン) (ゲスト環境のみ)

- Microsoft Virtual Server (全バージョン) (32ビット、x64) (ゲスト環境のみ)
- Microsoft Hyper-V (全バージョン) (ゲスト環境のみ)
- VMware 仮想化製品 (全バージョンの ESX、GSX、サーバおよびワークステーション) (32ビット、x64) (ゲスト環境のみ)

注: BlackBerry Enterprise Server (BES) 4.1 SP6。SRP キーの競合のために、BlackBerry HA では Assured Recovery はサポートされていません。

フル システム シナリオでは、以下のオペレーティング システムがサポートされています。

- Microsoft Windows Server 2003 SP2
- Microsoft Windows Server 2003 R2 SP2
- Microsoft Windows Server 2008 SP2
- Microsoft Windows Server 2008 R2

Assured Recovery オプション

- Windows 上の CA ARCserve RHA
- VSS スナップショット管理が、Windows Server 2003 以降で有効になっています。

サポートされている構成: UNIX/Linux

CA ARCserve RHA は、以下の UNIX/Linux プラットフォームでサポートされています。

- UNIX
 - IBM AIX 5.3 TL12、(32 ビットおよび 64 ビット) 6.1 TL7、7.1 TL1 (64 ビットのみ)
 - Oracle Solaris 10、11 SPARC (カーネルレベル 144488 以降)/x86 (64 ビット) (カーネルレベル 144489 以降)
- Linux
 - Red Hat Enterprise Linux バージョン 4 ~ 6.2 (i386 および x86-64)
 - Novell SuSE Linux Enterprise Server 9 ~ 11 SP1 (i386 および x86-x64)
 - CentOS バージョン 4 ~ 6.2 (i386 および x86-x64)

注: アシュアードリカバリは UNIX/Linux システムではサポートされていません。

Oracle 11 g R2 はサポートされていますが、32 ビットのクライアントをダウンロードする必要があります。詳細については、Oracle の Web サイトで「Separate 32-Bit Client Software for 64-Bit Ports」を検索してください。

サポートされる仮想プラットフォーム

サポートされる仮想プラットフォームについては、CA サポートの「CA ARCserve RHA [Compatibility Matrix](#)」(互換性マトリクス)を参照してください。

インストールに関する考慮事項

重要: CA ARCserve RHA のダウンロード イメージが標準的なコンパクト ディスク (CD) で利用可能なディスク空き容量を超えていることに注意してください。ダウンロード イメージをメディアにコピーするには、DVD またはフラッシュドライブを使用する必要があります。

以下の点を考慮してください。

- 画面の解像度が **1024×768** 以上に設定されていることを確認します。これより解像度が低いと、画面の一部が表示されない可能性があります。
- 日本語環境では、[アプリケーションの起動] ダイアログ ボックスが英語で表示される場合があります。この問題を回避するには、**.NET Framework 日本語 Language Pack** が適用されていることを確認してください。
- 必要となる **.NET 2.0 Framework** は、CA ARCserve RHA コントロール サービスのインストール時に同時にインストールされます。ただし、**.NET 2.0 Framework** がインストールされていない他の **Windows** マシンからコントロール サービスに接続しようとする、必要なコンポーネントのダウンロードとインストールを行うためのサイトのリストが表示されます。以下の **2 つ** のリンク セットが表示されます。
 - コントロール サービス マシンへのリンク
 - Microsoft の Web サイトへのリンク

リンクのセットから、コントロール サービスへの接続に使用するマシンに適したリンクを選択します(32 ビットまたは 64 ビット)。

- Windows Server 2003 R2 および Windows Server 2008 R2 システム上にリモートインストールを実行する場合、インストールは CA ARCserve RHA コントロール サービスがインストールされるリモート ホストに制限されます。
- ファイアウォールに関する問題を避けるために、CA ARCserve RHA エンジン を Windows Server 2008 のマスタおよびレプリカ サーバへインストールする際には、`setup.exe` をローカルで実行してください。その後、シナリオの作成時の[ホスト上の CA ARCserve RHA エンジンを検証]オプションを無効にします。これらのマシンにリモートで CA ARCserve RHA エンジン をインストール する必要がある場合は、Windows Server 2008 のファイアウォールで WMI トラフィックの通過を許可し、すべてのマスタおよびレプリカ マシンでポート 25000 の設定を行う必要があります。さらに、Hyper-V シナリオを作成する場合は、すべてのマスタ、レプリカ、および Hyper-V ゲスト マシン上で ICMP エコー応答メッセージを有効にする必要があります。この設定により、ゲストオペレーティングシステムに対して正常に ping を実行できるようになります。

注: セキュリティが強化された Windows ファイアウォール MMC スナップインの使用をお勧めします。セキュリティが強化された Windows ファイアウォール MMC スナップインを使用して Windows ファイアウォールを使用する方法の詳細については、Microsoft の Web サイトを参照してください。

CA ARCserve RHA エンジン をリモートでインストールする前に、以下の方法で WMI トラフィックがファイアウォールを通過できるように設定します。

1. [コントロール パネル]から[セキュリティの設定]を開き、[Windows ファイアウォール]をクリックします。
[Windows ファイアウォール]設定ダイアログ ボックスが開きます。
2. [設定の変更]、次に[例外]タブをクリックします。
プログラムとポートのリストが表示されます。
3. [Windows Management Instrumentation (WMI)]を選択して WMI トラフィックのファイアウォールの通過を許可します。
4. [OK]をクリックして、ファイアウォール設定を終了します。

5. 通常の方法でエンジンをインストールします。
6. エンジンのインストールが終了したらマスタおよびレプリカそれぞれのマシンについて、Windows ファイアウォールの新規の受信の規則ウィザードで、セキュリティが強化された Windows ファイアウォール MMC スナップインを有効にしてポート 25000 の設定を実行します。

TCP が選択されていることを確認し、ポート 25000 を[特定のローカルポート]リストに追加します。接続を許可し、プロファイル(例えば「プライベート」)に設定を適宜適用します。

注: ポート 25000 がデフォルトの設定です。このポートは変更することができます。**注:** ウィザードの使用方法の詳細については、該当する Microsoft の Web サイトを参照してください。

7. (Hyper-V シナリオの場合) CA ARCserve RHA から Hyper-V ゲストオペレーティングシステムに正常に ping を実行できるようにするため、すべてのマスタ、レプリカ、および Hyper-V ゲストマシンで ICMP エコー応答メッセージを有効にする必要があります。

任意の IP アドレスに対する特定の ICMP エコー要求を有効にして接続を許可するカスタムルールを作成するには、新規の受信の規則ウィザードを使用してください。

注: 詳細については、該当する Microsoft の Web サイトを参照してください。

- ドメインコントローラ上への、ACL ベースの認証を使用した CA ARCserve RHA コントロール サービスのインストールはサポートされていません。
- [ネットワーク アクセス: ローカル アカウントの共有とセキュリティ モデル]が [ゲスト]に設定されている Windows XP システムへの CA ARCserve RHA コントロール サービスのインストールは、サポートされていません。
- 以前のバージョンからのこのリリースにアップグレードした場合、オプション「既存のインストールのサービス ログオン アカウントを使用」は使用できません。これは、製品名が変更されたためです。

Solaris 11

- 以下は、CA ARCserve RHA エンジンを実装する Solaris 11 Sparc または Solaris 11 x86 ノングローバルゾーンにインストールする手順です。CA ARCserve RHA をグローバルゾーンとノングローバルゾーンの両方にインストール済みであることを確認してください。
 1. ノングローバルゾーンに `pkgadd` コマンドをインストールします。

```
pkg install install/installadm
```
 2. 必要なファイルをノングローバルゾーンにコピーします。
 - Solaris 11 Sparc については、「arcserverha_sunos511_sparc.tgz」というファイルをコピーします。
 - Solaris 11 x86 については、「arcserverha_sunos511_i386.tgz」というファイルをコピーします。
 3. ノングローバルゾーンにログインし、該当する `tgz` ファイルを解凍します。

Solaris 11 Sparc:

```
tar zxvf arcserverha_sunos511_sparc.tgz
```

Solaris 11 x86:

```
tar zxvf arcserverha_sunos511_i386.tgz
```
 4. [ARCserveRHA]フォルダに移動します。

```
cd ARCserveRHA
```
 5. スクリプト `install.sh` を実行して CA ARCserve RHA エンジンを実装します。

第 6 章：既知の問題

以下の問題が本リリースに存在していることが判明しています。

- ドック マネージャを使用してパネルを再配置した後に、CA ARCserve RHA のインターフェースをデフォルトの状態にリセットできない場合は、以下の手順に従います。
 - `ws_gui.exe` ファイルの実行ディレクトリを検索します。
 - インターフェースを閉じます。
 - このディレクトリでは、ファイル `dock_layout.xml` および `dock_layoutdefault.xml` を削除します。
 - インターフェースを再起動します。インターフェースの配置がデフォルトのレイアウトに戻ります。
- TxF 機能 (IIS 7.0) を使用するアプリケーションではリワインドはサポートされていません。
- Windows Server 2008 システムにリモートで CA ARCserve RHA エンジンを実インストールする場合、ローカル システムとしてコントロール サービスにログインするとインストールは失敗します。これを回避するには、ドメイン管理者アカウントを使用してコントロール サービスにアクセスします。
- Windows Server 2008 R2 を実行しているコンピュータ上で [コンピュータ名の切り替え] リダイレクション方式を使用する場合は、フェールオーバーが発生した後、手動でマスタ サーバをドメインに再接続する必要があります。
- NetBIOS サーバ名が 15 文字より長いとき、インターネット オプションでプロキシが設定されていると、[概要] 画面からの CA ARCserve RHA マネージャの起動が失敗する場合があります。プロキシ サーバが解決できるのは DNS 名のみで、NetBIOS 名は解決できません。

■ Microsoft SQL Server

- SQL Server シナリオでは、クラスター サーバ名はスイッチオーバーの後に変更されますが、再起動プロパティが設定されていてもサーバは再起動されません。
- C:¥のようなブート ボリュームのルート ディレクトリに SQL データ ファイルをインストールしないでください。レプリケーション中に、ターゲット ファイルがレプリカ サーバ上で開かない場合があります、その結果エラーが発生します。
- アシユアードリカバリ シナリオは、ワークグループ内で実行中の SQL サーバ上で失敗します。理由は以下です。
 - レプリカ ローカル管理者アカウントは master データベース内のマスター ローカル管理者アカウントによって上書きされます。
 - アプリケーションは、Windows 認証を使用して SQL サーバにログインします。

この問題を回避するには、SQL 認証または[コンピュータ名の切り替え]リダイレクション方式を使用します。

フルシステム保護

- フル システム シナリオは、マスタ サーバ上でダイナミック ディスクをサポートしません。
- Citrix XEN シナリオについては、ディスクに格納されているファイルが使用中の場合は、仮想マシン上のディスクをマウント解除できません。
- Windows ライセンス タイプに応じて、フル システム アシユアードリカバリまたはスイッチオーバー後に、仮想マシンを再度アクティブにする必要がある場合があります。再アクティブ化ポリシーの詳細については、Microsoft の Web サイトを参照してください。
- ESX のサポートされているバージョンとそれ以外のバージョンが vCenter Server によって管理されている「混在環境」では、VMDK を指定したアプライアンスにマウントできないため、フル システム シナリオが失敗する場合があります。この状況を回避するには、環境内のすべての ESX バージョンをサポートされているバージョンにする必要があります。
- フル システム シナリオのリストア プロセスを実行する場合は、マスタ上のアプリケーション サービスを手動で停止する必要があります。そうしないと、リストア後にアプリケーションが破損する場合があります。リストア後にアプリケーションが破損した場合、問題を解決するには、アプリケーション サービスを停止し、同じブックマークまで再度リストアしてください。

CA ARCserve RHA MMC

- MMC は、以下の場合にライセンス サーバに接続できないことがあります。
 - デフォルトの HTTP または HTTPS プロキシが、MMC が実行中のホスト上に設定されている。
 - ライセンス サーバのアドレスがプロキシバイパスリストに載っていない。
 - プロキシが Web サイトにアクセスするには認証が必要である。
 - Windows アカウントがプロキシへのアクセスに必要な権限を持っていない。つまり、現在の MMC ユーザにはプロキシを使用する権限がない。

この事態を回避するには、以下の手順に従います。

- HTTP プロキシ バイパスリストでコントロール サービスを指定します。
- Internet Explorer の HTTP プロキシ設定を削除して、MMC がコントロール サービスに直接接続できるようにします。
- 現在のユーザに対して HTTP プロキシ サーバへのアクセスを許可します。
- MMC は、Windows インターネット設定を使用してコントロール サービスに自動接続します。この設定は、サードパーティアプリケーションによって変更できます。
- CA ARCserve RHA ディスクリソースは、Microsoft Failover Cluster の複数のボリューム内でのデータの整合性を保証しません。データセット間のデータの整合性が必要なアプリケーションについては、すべてのデータを単一のボリューム上でホストする必要があります。
- CA ARCserve RHA ディスクリソースを作成できるのは、クラスタを所有するノード上のみです。たとえば、クラスタ ノード A、B、C、および D があり、ノード A がクラスタを所有している場合は、ディスクリソースはノード A 上のみ作成することができます。

Oracle Solaris 11

Solaris 11 で IP 移動リダイレクション方式のシナリオを作成する前に、関連する NIC/IP アドレスを Solaris 側で手動モードに設定してください。

Linux

- マスタのルートディレクトリにおける任意のファイル操作では、SeLinux を無効にするか、SeLinux セキュリティコンテキストを変更する必要があります。

Microsoft Windows 2003

- レプリカ サーバが Windows 2003 で、マスタサーバが Windows 2008 以降である場合、以下のエラーが発生する可能性があります。このエラーは、ハードリンクまたは Transactional NTFS (TxF) ファイルシステムの操作を Windows 2003 がサポートしていないために発生します。

イベント ハード リンクの作成 を

```
¥¥?¥Volume{b8262eac-30ac-11e1-959c-000c29f6edbe}/<a-file-path>  
に対して実行できません。アクセスが拒否されました。(5)
```

第 7 章: ローカライズ バージョン

CA ARCserve RHA は、以下の言語で使用できます。

- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- 日本語
- イタリア語
- スペイン語
- ポルトガル語(ブラジル)
- 中国語(簡体字)
- 中国語(繁体字)

注: このリリースの CA ARCserve RHA は Unicode BMP (Basic Multilingual Plane、基本多言語面) のすべての文字をサポートしています。JIS2004 文字のサポートには、これらの BMP (Basic Multilingual Plane、基本多言語面) でエンコードされたものも含まれますが、サロゲート ペア文字(プレーン 2) は含まれません。

これらの言語の文字セットは以下でサポートされています。

- インストール
- フォルダ/ファイルレプリケーション
- データベース/テーブル/インスタンス/Exchange メッセージレプリケーション
- 中央管理インターフェース内の、一部のウィザード画面、メニュー、レポート、およびアラート

注: これらの言語の文字セットは、警告メールの添付ファイル、ホスト名、インストール/ホーム ディレクトリパス、ユーザ名およびパスワードではサポートされていません。同一のシナリオにかかわるすべてのサーバには、同じ言語パッケージをインストールしておく必要があります。ただし、同じ言語パッケージが同ードメイン内のすべてのサーバに必要なわけではありません。